

## リフレッシュ休暇、ボランティア休暇



### カシオ計算機株式会社

総務人事統轄部人事部  
人事開発グループ グループマネジャー

受川 浩之さん(右)

総務人事統轄部人事部  
人事開発グループ

萱場 庸介さん(左)

#### 企業プロフィール

- 事業内容：電子機器の製造、開発、販売
- 従業員数：2,608名(2012年3月31日現在)
- URL：<http://casio.jp/>

## 仕事とプライベートの好循環で 社員の能力を再大限に発揮

**実践！** こうすればできる！  
こうすればのびる！

- ① 長期休暇取得を「あたりまえ」に
- ② 社員の意見をとり入れた、利用しやすい制度
- ③ 会社主催のイベントで休暇取得を促進

### リフレッシュ休暇

「ゼロから1を生む」というのが弊社の商品企画ポリシーです。これまで存在しなかった製品をつくり出すには、言うまでもなく社員が常に創造性豊かである必要がありますが、そのためには、社員一人ひとりがプライベートを充実させ、仕事とうまくバランスをとることが大事です。仕事の成果をあげるのに役立つ広い視野や知識、スキル、そして人脈は、仕事以外のプライベートな場でつちかわれることも多いものです。仕事とプライベートが互いに刺激しあい、いい影響を与え合う「仕事とプライベートの好循環」の実現をサポートするために、休暇制度の整備を進めてきました。

リフレッシュ休暇は勤続10年、20年、30年で取得できる長期休暇で、これまでの勤務に対する慰労と、今後のさらなる活躍のために心身ともにリフレッシュしてもらうことを目的としたものです。それぞれ連続5日の休暇が付与され、前後に土日をつなげると最長9日の長期

休暇となります。旅行券(勤続10年・3万円、20年・5万円、30年・10万円)も支給されます。社内に浸透した制度なので、皆、取得する時期が来るのを楽しみにしていますし、実際に休暇付与の対象となった社員のほとんどが取得しています。権利取得日から1年以内に休暇を取得することとしていますが、業務の都合で難しい場合には、さらにあと1年の延期を認めています。またどうしても連続5日の取得ができないという場合は、分割での取得が認められることもあります。

### 時間有給休暇

時間有給休暇は、次世代育成委員会からの要望で設けられた制度です。子育て中の社員からの意見に、例えば夕方子供を病院に連れて行かなければならない場合、以前は半日休暇を取得せざるを得ず、1時間早く退社するために半日有休を使うのはもったいない、何とかしてほしいというものがありました。要望があった当時は時間単位の年次有給休暇が法的に認められておらず、すぐには要望に応えられなかったのですが、法改正で認められるようになると同時にこの制度を取り入れました。制度化してみると、思いがけず管理職から「ちょっと病院に行くのに1時間ほど抜きたいというときに、1日や半日休まなくていいので助かった」という声があがりました。ちょっとした用事のために丸1日休むのは難しい、とい

う多忙な管理職でも、時間有休ならば利用しやすいようです。

### ボランティア休暇

弊社にはボランティア休暇というものはありませんでした。2011年の東日本大震災が起きて、社員から「ボランティアに行きたいので、気兼ねなく休める休暇がほしい」という声があがり、急速対応策を考えました。弊社では年次有給休暇の積立制度を導入していますが、積立休暇の取得事由の「特に人事部長が認めた場合」という項目を適用することにより、ボランティア活動のためにも取得できるようにしました。弊社の積立休暇は、失効した年次有給休暇から年に4日に限り積み立てることができるもので、上限が30日までとなっています。利用

できる用途は私傷病、介護・看護、ドナーとなる場合等で、原則は年次有給休暇をすべて消化し、それでも足りないときに限られます。ただしドナーとこのたび加えたボランティアについては、年次有給休暇が残っていても優先的に使うことができます。

2011年の10月には、CSR推進室の主催で被災地支援ボランティア活動を実施しました。カシオグループの社員が参加し、宮城県七ヶ浜町ボランティアセンターの指導のもと、土のうの作製、海岸線の道路整備作業、倒壊した民家の屋根瓦の除去・回収作業に従事しました。参加した社員からは「今後もボランティア休暇を活用してこういった活動に参加したい」という声寄せられました。2011年のボランティア参加実績は個人参加で17名、会社主催のもので11名でした。



戦略統轄部 システム戦略部  
海外PS営業課  
平野 謙治さん  
(リフレッシュ休暇、ボランティア休暇)

今からおよそ10年前の勤続10年目のときのリフレッシュ休暇は、韓国に1週間出かけました。当時はアジア向け製品の海外営業を担当していたこともあり、隣の韓国についての知見を広げよう、通常の出張では行けないところを中心に回りました。韓国の文化的歴史的な背景を見聞きするいい機会になったと思います。このような長期休暇があるからこそ実現できた旅行です。リフレッシュ休暇は皆が楽しみにしている休暇です。私の知る限りでは、これまでに取らなかった社員は、一人もいません。非常に多忙な営業社員でも取得しています。

とにかく、社内のすべての職場がリフレッシュ休暇を取りやすい雰囲気であって、休暇中はまわりが仕事をカバーするのも当然のことになっています。もちろん休暇取得者も時期を選ぶようにしていて、例えば海外営業ですと、海外の取引先はクリスマスで1週間休みますので、そういう時期に合わせて取得するなど、仕事に支障をきたさないような工夫をしています。私は昨年、勤続20年目を迎えたのですが、昨年は取得できなかったのが、1年延期して今年の年末に取得する予定です。

ボランティア休暇はこれまでに4回取得しています。子どもの頃に父親の仕事の関係で岩手県に6年間住んでいたこともあり、今回の大震災はとても他人事に思えませんでした。最初にボランティア休暇を取得したのは2011年の4月で、岩手県の社会福祉協議会が県外のボランティアを募集していたものに参加しました。大槌町の個人宅でのガレキ処理作業でした。2回目は6月に山田町へ出かけ、泥だらけになってしまった「鯨と海の科学館」の泥出し作業、次の日は支援物資の仕分け作業の手伝いをしました。3回目は7月に再び大槌町にて、鮭が遡上できるようにするための川の清掃作業。4回目は弊社のCSR推進室が募集した災害復旧ボランティアに参加して、宮城県七ヶ浜町の海岸線の清掃と再生作業を行いました。いずれも、1~2日のボランティア休暇を取得し、土日につなげて利用しました。

最初の頃は現地の状況があまり知られていなかったのが多かったですね。情報が少ない時期ですので、休暇を活用することで、実際の様子を伝えられてよかったと思っています。ボランティア休暇は、社員のボランティア参加を促す大変すばらしい制度だと思います。人はこういった経験をすることで、必ず「心」が成長し、それは仕事にもいい影響を及ぼすと確信しています。

VOICE